

モモ第7回系統適応性検定試験の概要

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-22 キーワード (Ja): キーワード (En): fruit breeding, local adaptability test, peach 作成者: 八重垣, 英明, 土師, 岳, 三宅, 正則, 福田, 博之, 木原, 武士, 鈴木, 勝征, 田中, 敬一, 山口, 正己 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24514/00001708

モモ第7回系統適応性検定試験の概要

八重垣英明・土師 岳・三宅正則^{†1}・福田博之^{†2}・
木原武士^{†3}・鈴木勝征*・田中敬一^{†4}・山口正己

独立行政法人農業技術研究機構

果樹研究所遺伝育種部

*果樹研究所企画調整部

305-8605 茨城県つくば市

Summary of the 7th Local Adaptability Test on Peach

Hideaki YAEGAKI, Takashi HAJI, Masanori MIYAKE, Hiroyuki FUKUDA,
Takeshi KIHARA, Katsuyuki SUZUKI, Keiichi TANAKA and Masami YAMAGUCHI

Department of Fruit Breeding and Department of Research Planning and Coordination
National Institute of Fruit Tree Science, National Agricultural Research Organization, Tsukuba, Ibaraki 305-8605, Japan

Summary

The 7th local adaptability test on peach had been conducted at 24 experimental stations from 1992 to 2001, using 9 lines selected in the National Institute of Fruit Tree Science. 'Momo Tsukuba 109' to 'Momo Tsukuba 113' are white flesh table peaches. 'Momo Tsukuba 114' to 'Momo Tsukuba 116' are yellow flesh table ones. 'Momo Tsukuba 117' is white flesh canning peach. The results of the test are presented. 'Momo Tsukuba 109', 'Momo Tsukuba 110', 'Momo Tsukuba 112', 'Momo Tsukuba 114', 'Momo Tsukuba 115' and 'Momo Tsukuba 116' were judged to be not designated. On the other hand, 'Momo Tsukuba 111', 'Momo Tsukuba 113' and 'Momo Tsukuba 117' were designated as 'Natsuotome', 'Hakushu' and 'Mochizuki' respectively and registered as 'Momo Norin No.23', 'Momo Norin No.24' and 'Momo Norin No.22' respectively.

Key words: fruit breeding, local adaptability test, peach

緒 言

我が国で栽培されているモモの大部分は毛じのある白肉の生食用品種である。本来、モモには様々なタイプが存在するが、生産のほとんどがその一つのタイプで占め

られていることになる。果樹研究所では早生の「さおとめ」(吉田ら, 1984), 「ちよひめ」(吉田ら, 1987), 中生の「あかつき」(金戸ら, 1980), 「よしひめ」(京谷ら, 1992a), 「まさひめ」(京谷ら, 1992b), 晩生の「ゆうぞら」(吉田ら, 1983), 「あきぞら」(山口ら, 1996)などの有毛の生食用白肉品種7品種を育成しているが果実の

^{†1} 現 山梨県果樹試験場

405-0043 山梨県山梨市

^{†3} 現 日本園芸農業協同組合連合会 143-0001 東京都大田区

^{†2} 現 弘前大学

036-8560 青森県弘前市

^{†4} 現 果樹研究所生理機能部 305-8605 茨城県つくば市

大きさや食味の安定性など改良すべき点が残されている。実際、毛じのある生食用白肉品種も早生の‘日川白鳳’、中生の‘白鳳’、‘あかつき’、中晩生の‘川中島白桃’の4品種で全体の50%を超えるまでに至っている(農林水産省果樹花き課, 2000)。一方、毛じのある黄肉生食用品種の栽培も少しずつではあるが増加傾向にある。しかし品質の優れた品種は少ないのが現状である。また我が国の缶詰用品種で最も多く利用されていた‘大久保’は、無袋栽培では果肉内に紅色素を生じ、これが缶詰製品の外観を損なうことから有袋栽培が行われてきた。しかし、近年の生産者の高齢化および労働力不足、中国産果実との競合などのため白肉缶詰用モモ果実生産は著しく減少しており、無袋栽培可能な省力的かつ高品質品種が求められてきている。

そこで生食用白肉品種では大玉で食味の優れた早生品種や、‘白鳳’および‘あかつき’と‘川中島白桃’の収穫期の間を埋める中晩生品種を、生食用黄肉品種では早生から晩生に至る品質、栽培性の優れた一連の品種を、さらに果肉内の紅色素が少なく無袋栽培が可能で缶詰製品品質の優れた品種を育成するために交雑を行った。得られた実生の中から選抜された9系統について‘モモ筑波109号’から‘モモ筑波116号’までは平成4年度から、‘モモ筑波117号’は平成6年度から追加系統として全国24の公立試験研究機関の協力のもと試験を実施してきたが、平成13年度をもって本試験を終了したのに伴い、試験の経過と供試系統の特性評価の概要を報告する。

謝辞 本試験の実施に当たり、担当された関係公立試験研究機関の各位並びに、実生育成、特性調査などにご協力頂いた当所の歴代職員、研修生諸氏に心から謝意を表します。

モモ第7回系統適応性検定試験参加場所

当所以外にモモ第7回系統適応性検定試験を実施した場所は以下の通りである。

宮城県園芸試験場(現 宮城県農業・園芸総合研究所)、秋田県果樹試験場天王分場、山形県立園芸試験場、福島県果樹試験場、山梨県果樹試験場、長野県果樹試験場、新潟県園芸試験場(現 新潟県農業総合研究所園芸研究センター)、静岡県柑橘試験場落葉果樹分場、愛知県農業総合試験場園芸研究所、京都府丹後農業研究所、和歌山県果樹園芸試験場紀北分場(現 和歌山県農林水産総合技術センター果樹園芸試験場紀北分場)、岡山県立農業試験場(現 岡山県農業総合センター農業試験場)、広島県立農業技術センター果樹研究所、山口県農業試験場、徳島県果樹試験場県北分場(現 徳島県立農林水産総合技術センター果樹研究所県北分場)、香川県農業試験場府中分場、愛媛県立果樹試験場、愛媛県立果樹試験場鬼北分場、高知県農業技術センター果樹試験場、福岡県農業総合試験場豊前分場、熊本県農業研究センター果樹研究所、熊本県農業研究センター球磨農業研究所、大分県農業技術センター、鹿児島県果樹試験場北薩支場

モモ第7回系統適応性検定試験担当者

当所におけるモモ第7回系統適応性検定試験の担当者および担当期間は以下の通りである。

山口正己(平成4年4月~平成14年3月)、土師 岳(平成4年4月~平成14年3月)、三宅正則(平成5年4月~平成8年3月)、八重垣英明(平成8年4月~平成14年3月)、田中敬一(平成6年4月~平成8年3月)、福田博之(平成4年4月~平成5年2月)、木原武士(平成5年4月~平成8年3月)、鈴木勝征(平成8年4月~平成14年3月)

第1表 モモ第7回系統適応性検定試験供試系統の概要および検討結果

系統名	個体番号	交配組合せ	結果
モモ筑波109号	214 - 40	ゆうぞら × ちよひめ	平成13年度で試験中止
モモ筑波110号	209 - 38	あかつき × よしひめ	平成11年度で試験中止
モモ筑波111号	209 - 21	あかつき × よしひめ	平成11年8月13日命名登録
モモ筑波112号	191 - 19	倉方早生 × 141 - 23	平成8年度で試験中止
モモ筑波113号	153 - 15	う - 9 × C2R19T182	平成13年10月9日命名登録
モモ筑波114号	214 - 14	ゆうぞら × ちよひめ	平成10年度で試験中止
モモ筑波115号	153 - 5	う - 9 × C2R19T182	平成11年度で試験中止
モモ筑波116号	101 - 26	ゆうぞら セルフ	平成11年度で試験中止
モモ筑波117号	222 - 1	筑波115号 × 139 - 28	平成9年8月19日命名登録

141 - 23 : 105 - 6 × NJC2R18T14 (導入品種), う - 9, う - 6 : 白桃 × 布目早生,

139 - 28 : 81 - 12 × C2R19T182 (導入品種), 105 - 6 : 缶桃14号 × う - 6,

81 - 12 : C - 49 - 12 × う - 6, C - 49 - 12 : Fortuna × 缶桃5号

検討の結果

各供試系統の個体番号，交雑組合せおよび検討結果を第1表に，特性を第2表に示した．調査方法については育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法（果樹試験場，1994）のモモ調査方法に基づき実施した．また系統適応性検定試験における評価の概要は以下の通りである．

第2表 モモ第7回系統適応性検定試験供試系統の特性

系統名	果皮の毛じ	果肉色	肉質	核の粘離	花粉の有無
モモ筑波 109号	有	白	溶質	粘核	有
モモ筑波 110号	有	白	溶質	粘核	有
モモ筑波 111号	有	白	溶質	粘核	有
モモ筑波 112号	有	白	溶質	粘核	有
モモ筑波 113号	有	白	溶質	粘核	有
モモ筑波 114号	有	黄	溶質	粘核	有
モモ筑波 115号	有	黄	溶質	粘核	有
モモ筑波 116号	有	黄	溶質	粘核	有
モモ筑波 117号	有	白	半不溶質	粘核	有

1. モモ筑波 109号

‘ちよひめ’よりやや遅く収穫される白肉の早生系統として供試された．平成11年および12年度の各場所の成績を第3,4表に示した．

樹性：樹姿は「中」，樹勢は「強」～「やや強」と評価する場所が多かった．花芽の多少は「多」とする場所が多く‘ちよひめ’と同等と評価された．

果実：果形は「扁円」と評価する場所が多かった．着色は「多」～「やや多」とする場所が多く，外観良好と評価された．果肉の粗密は「中」，核割れは「微」～「無」，生理的落果は「少」と評価する場所が多かった．収穫盛期は‘ちよひめ’よりも平均で3日程度遅くなった．果実重は全国平均で170gで‘ちよひめ’より10g程度小さくなった．糖度は11.4%で‘ちよひめ’と同等かやや高くなった．酸度はpH4.3で少ないと評価された．以上，着色が多く外観良好となり，早生系統としては食味も優れるものの，‘ちよひめ’よりやや遅く収穫されるものの果実は小さくなるなどの理由から本系統は平成13年度で試験中止と判断された．

第3表 筑波109号の樹性および果実特性

(平成11,12年度の平均)

場所	品種・系統	樹齡 ^z	樹姿	樹勢	花芽の多少	果形	着色	果肉の粗密	核割れ	生理的落果
福島果試	109号 ^y	9	直	強	や多	扁円	多	中	無	少
	ちよひめ ^y	16	直	やや強	や多	円	中	やや粗	や多	少
果樹試	109号 ^y	9	直	強	多	扁円	多	やや密	無	微少
	ちよひめ ^y	9	直	強	多	円	中	中	少	少
山梨果試	109号	8	直	やや強	多	扁円	や多	密	無	微少
	ちよひめ	8	直	中	や多	扁円	中	密	少	少
長野果試	109号	9	中	やや強	多	扁円	多	密	少	少
	ちよひめ	9	中	やや強	多	円	や多	密	中	少
愛知総農試 園芸研	109号 ^y	8	中	やや強	多	扁円	多	中	無	無
	ちよひめ ^y	8	中	中	多	円	中	中	微	無
岡山農試	109号	9	直	強	多	円	中	やや粗	微	少
	ちよひめ	9	直	強	多	短楕円	少	やや密	無	少
徳島果試 県北分場	109号	3 ^x	中	やや強	多	扁円	多	中	少	少
	ちよひめ	16	中	中	多	扁円	多	中	中	少
香川農試 府中分場	109号	9 ^x	-	中	多	円	中	中	微	-
	ちよひめ	9 ^x	-	やや強	中	短楕円	や多	密	多	-
愛媛果試 鬼北分場	109号	9	中	強	多	円	中	中	やや少	少
	ちよひめ	9	中	強	多	短楕円	少	中	やや少	少
高知農技センター 果樹試	109号	9	中	やや強	多	円	や多	中密	中	少
	ちよひめ	9	直	中	中	短楕円	や多	密	中	微
福岡総農試 豊前分場	109号	9	中	中	多	扁円	多	中	やや多	無
	ちよひめ	9	中	やや弱	多	円	や多	やや密	やや多	無
熊本農研センター 果樹研	109号 ^y	9	-	中	多	扁円	多	密	微	少
	ちよひめ ^y	9	-	中	多	円	多	密	無	少

^z 平成12年度の樹齡 ^y 無袋栽培 ^x 高接ぎ

第4表 筑波109号の収穫期、収量および果実品質 (平成11, 12年度の平均)

場 所	品種・系統	収穫盛期	果実重 (g)	収量 (kg/樹)	糖度 (%)	酸度 (pH)
福島果試	109号 ^z	7.10	151	47.9	12.2	4.70
	ちよひめ ^z	7.6	200	127.2	11.1	4.45
果樹試	109号 ^z	7.2	180	14.2	11.1	4.33
	ちよひめ ^z	6.26	185	19.2	10.8	4.59
山梨果試	109号	6.27	182	18.7	10.7	4.40
	ちよひめ	6.28	193	14.0	12.4	4.85
長野果試	109号	7.11	149	24.9	13.1	4.40
	ちよひめ	7.9	168	21.6	11.7	4.30
愛知総農試 園芸研	109号 ^z	6.21	113	39.4	10.7	4.15
	ちよひめ ^z	6.21	125	32.2	10.8	4.35
岡山農試	109号	6.27	168	42.1	11.8	4.20
	ちよひめ	6.25	145	45.6	12.1	4.40
徳島果試 県北分場	109号	6.25	172	6.3	11.9	4.19
	ちよひめ	6.21	207	32.2	12.9	4.02
香川農試 府中分場	109号	7.6	252	7.5	13.2	4.32
	ちよひめ	6.23	241	5.0	11.6	4.04
愛媛果試 鬼北分場	109号	6.21	121	20.7	11.4	4.16
	ちよひめ	6.19	132	18.4	10.1	4.27
高知農研センター 果樹試	109号	6.22	193	11.3	10.0	4.75
	ちよひめ	6.20	190	12.9	10.3	4.56
福岡総農試 豊前分場	109号	6.28	213	20.1	10.1	4.19
	ちよひめ	6.23	205	13.4	9.9	4.31
熊本農研センター 果樹研	109号 ^z	6.15	150	-	11.7	4.55
	ちよひめ ^z	6.14	155	-	11.5	4.63
平均	109号	6.27	170	-	11.4	4.36
	ちよひめ	6.24	178	-	11.2	4.39

^z 無袋栽培

2. モモ筑波110号

‘あかつき’より1週間程度早く収穫される白肉の早生系統として供試された。平成10年および11年度の各場所の成績を第5, 6表に示した。

樹性：樹姿は「中」、樹勢は「中」と評価する場所が多かった。花芽の多少は「多」とする場所が多く、‘あかつき’と同等と評価された。

果実：果形は「円」～「扁円」とする場所が多かったが「短楕円」とした場所もあった。着色は「やや多」～「中」、果肉の粗密は「やや密」～「中」、核割れ「少」～「微」、生理的落果は「少」と評価する場所が多かった。収穫盛期は‘あかつき’より早くなる場所も遅くなる場所もあったが、平均では‘あかつき’と同時期となった。果実重は252gで‘あかつき’より20g以上大きくなった。糖度は12.1%で‘あかつき’より1%程度低くなった。酸度はpH4.5で少ないと評価された。

以上、‘あかつき’より果実が大きくなるものの、収穫が同時期となり、甘味が少なく食味が劣るなどの理由か

ら本系統は平成11年度で試験中止と判断された。

3. モモ筑波111号

‘あかつき’と同時期に収穫される白肉の中生系統として供試された。検討の結果、果実肥大が良好で、甘味が多く食味が優れ、‘あかつき’よりやや遅く収穫されることから、平成10年度落葉果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会において新品種候補にふさわしいとの合意がなされ、平成10年度果樹試験研究推進会議において新品種候補とすることが決定された。平成11年8月13日に‘なつおとめ’と命名され、もも農林23号として登録された(山口ら, 2000)。

4. モモ筑波112号

‘あかつき’より1週間程度遅く収穫される白肉の中生系統として供試された。平成7年および8年度の各機関の成績を第7, 8表に示した。

樹性：樹姿は「直」～「やや直」、樹勢は「やや強」～

第5表 筑波110号の樹性および果実特性

(平成10,11年度の平均)

場所	品種・系統	樹齡 ^z	樹姿	樹勢	花芽の 多少	果形	着色	果肉の 粗密	核割れ	生理的 落果
宮城園試	110号 ^y	7	中	強	多	円	や多	密	微	や少
	あかつき ^y	20	中	強	多	扁円	多	密	や少	少
秋田果試 天王分場	110号	8	中	中	多	扁円	中	中	や少	-
	あかつき	8	や直	中	多	扁円	中	や密	微	-
山形園試	110号 ^y	8	や直	中	多	円	多	中	少	少
	あかつき ^y	8	や直	中	多	扁円	多	中密	や少	少
福島果試	110号 ^y	8	開	強	や多	扁円	中	や密	無	少
	あかつき ^y	20	中	中	多	扁円	多	密	中	少
果樹試	110号 ^y	8	直	強	多	円	や多	や密	中	微
	あかつき ^y	8	直	強	多	扁円	や多	や密	無	中
長野果試	110号	8	中	や強	多	扁円	中	密	や多	少
	あかつき	8	や開	や強	多	扁円	や多	密	や少	少
静岡柑橘試 落葉果樹分場	110号 ^y	7	中	中	多	円	中	中	中	中
	あかつき ^y	7	や開	や弱	多	扁円	多	や密	微	少
愛知総農試 園芸研	110号 ^y	7	中	強	多	扁円	や少	密	無	無
	あかつき ^y	7	中	や強	多	扁円	中	中	無	無
和歌山果樹園芸 試紀北分場	110号	8	中	中	多	扁円	多	粗	多	少
	あかつき	8	中	中	多	扁円	中	や密	中	少
岡山農試	110号	8	や直	強	多	短楕円	少	中	や少	少
	あかつき	8	直	強	多	扁円	多	中	微	少
山口農試	110号	8	中	や強	多	短楕円	や多	や密	微	少
	あかつき	8	や開	や弱	多	扁円	多	や密	無	少
徳島果試 東北分場	110号	8 ^x	中	や弱	中	扁円	や多	中	や少	少
	あかつき	15	中	中	多	扁円	多	や密	少	少
香川農試 府中分場	110号	8 ^x	-	中	多	円	中	中	無	-
	あかつき	13	中	や強	多	円	や多	中密	無	-
愛媛果試	110号	8	や開	中	や多	円	中	中	少	少
	あかつき	8	や開	中	多	円	多	中密	微	少
愛媛果試 鬼北分場	110号	8	中	強	多	円	中	中	少	少
	あかつき	8	中	や弱	多	円	や多	中密	無	少
高知農技センター 果樹試	110号	8	や開	中	多	円	中	密	少	少
	あかつき	8	中	弱	多	扁円	中	密	微	少
福岡総農試 豊前分場	110号	8	や開	中	多	扁円	や多	中	少	無
	あかつき	8	中	中	多	扁円	や多	中密	微	少
熊本農研センター 果樹研	110号 ^y	8	-	中	多	扁円	中	密	微	や少
	あかつき ^y	8	-	や強	多	扁円	中	密	無	や少
鹿児島果試 北薩支場	110号	8	中	中	中	短楕円	多	密	微	-
	あかつき	7	中	中	中	楕円	多	密	無	-

^z 平成11年度の樹齡 ^y 無袋栽培 ^x 高接ぎ

「中」と評価する場所が多かった。花芽の多少は「多」～「やや多」とする場所が多いものの「あかつき」より少なく評価する場所が多かった。

果実：果形は「扁円」、着色は「多」～「中」、果肉の粗密は「やや密」～「中」、核割れは「無」、生理的落果は「少」と評価する場所が多かった。収穫盛期は「あかつき」よりも10～21日遅くなった。果実重は全国平均で235gとなり「あかつき」より30g程度大きくなった。

糖度は12.9%で「あかつき」と同等となったが、甘味をあまり感じないと評価された。酸度はpH4.7で少ないと評価された。また果実が三角形になり外観が劣ることが指摘された。

以上、「あかつき」よりも果実が大きくなるものの、着色先行タイプで収穫適期の判断が難しく、糖度の割には甘みを感じられない、外観が劣るなどの理由から本系統は平成8年度で試験中止と判断された。

第6表 筑波110号の収穫期，収量および果実品質 (平成10,11年度の平均)

場 所	品種・系統	収穫盛期	果実重 (g)	収量 (kg/樹)	糖度 (%)	酸度 (pH)
宮城園試	110号 ^z	8.4	212	30.8	11.3	4.56
	あかつき ^z	8.8	259	122.8	10.7	4.56
秋田果試 天王分場	110号	8.7	212	6.5	12.5	4.70
	あかつき	8.5	178	12.1	13.8	4.80
山形園試	110号 ^z	8.8	313	43.3	12.8	4.45
	あかつき ^z	8.7	247	37.5	13.4	4.60
福島果試	110号 ^z	7.28	298	45.8	11.4	4.60
	あかつき ^z	7.31	259	201.0	13.1	4.55
果樹試	110号 ^z	7.20	253	21.7	11.5	4.34
	あかつき ^z	7.22	231	21.3	11.7	4.48
長野果試	110号	8.1	236	20.3	14.2	4.55
	あかつき	7.31	231	24.3	17.1	4.75
静岡柑橘試 落葉果樹分場	110号 ^z	7.8	229	8.0	12.3	4.40
	あかつき ^z	7.13	240	7.4	12.9	4.60
愛知総農試 園芸研	110号 ^z	7.9	208	17.0	11.3	4.25
	あかつき ^z	7.15	188	21.8	12.7	4.50
和歌山果樹園芸 試紀北分場	110号	7.11	330	39.3	13.2	4.90
	あかつき	7.6	247	22.9	14.1	4.70
岡山農試	110号	7.10	223	22.8	13.6	4.45
	あかつき	7.11	171	30.3	14.7	4.40
山口農試	110号	7.22	239	100.0	10.8	4.65
	あかつき	7.22	236	23.0	12.3	4.70
徳島果試 県北分場	110号	7.19	271	16.1	12.9	4.31
	あかつき	7.11	248	65.9	13.5	4.20
香川農試 府中分場	110号	7.14	264	10.5	10.1	4.75
	あかつき	7.14	264	-	12.3	4.45
愛媛果試	110号	7.14	329	18.4	12.3	4.45
	あかつき	7.15	286	13.0	13.2	4.50
愛媛果試 鬼北分場	110号	7.10	222	16.6	13.1	4.33
	あかつき	7.14	173	4.4	16.2	4.72
高知農技センター 果樹試	110号	7.14	222	5.1	11.3	4.58
	あかつき	7.19	221	7.0	12.8	4.75
福岡総農試 豊前分場	110号	7.19	272	12.4	12.7	4.57
	あかつき	7.16	217	13.8	13.7	4.55
熊本農研センター 果樹研	110号 ^z	6.20	233	-	12.6	4.70
	あかつき ^z	7.4	244	-	12.1	4.78
鹿児島果試 北薩支場	110号	7.3	235	15.4	10.6	5.01
	あかつき	7.3	211	13.0	11.9	5.17
平均	110号	7.17	252	-	12.1	4.55
	あかつき	7.18	229	-	13.2	4.61

^z 無袋栽培

5. モモ筑波113号

‘ゆうぞら’より10日程度早く収穫できる白肉の中晩生系統として供試された。検討の結果，果実が大きく，無袋栽培では着色が少ないものの遮光袋を用いた栽培ではきれいな白色の外観となり，生理的落果も少ないことから，着色抑制栽培用品種としては有望であると判断さ

れ，平成12年度落葉果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会において新品種候補にふさわしいとの合意がなされ，平成12年度果樹試験研究推進会議において新品種候補とすることが決定された。平成13年10月9日に‘白秋’と命名され，もも農林24号として登録された(山口ら，2002)。

第7表 筑波112号の樹性および果実特性

(平成7, 8年度の平均)

場 所	品種・系統	樹齢 ^z	樹姿	樹勢	花芽の 多少	果形	着色	果肉の 粗密	核割れ	生理的 落果
宮城園試	112号 ^y	5 ^x	-	-	多	円	多	中	無	少
	あかつき ^y	17	中	中	多	円	多	中	無	少
秋田果試 天王分場	112号	5	やや直	中	中	扁円	中	中	無	-
	あかつき	5	中	中	や多	扁円	や多	中	無	-
山形園試	112号 ^y	5	直	や強	や多	扁円	や多	密	無	少
	あかつき ^y	5	やや直	や強	多	扁円	多	密	無	少
福島果試	112号 ^y	5	直	中	や多	扁円	中	粗	無	微
	あかつき ^y	17	中	中	多	円	や多	中	無	少
果樹試	112号 ^y	5	やや直	や強	多	扁円	や多	中	無	少
	あかつき ^y	5	中	や強	多	円	中	や密	無	少
山梨果試	112号	4	直	や強	多	扁円	多	や密	無	や少
長野果試	112号 ^y	5	やや直	強	や多	扁円	中	や密	無	少
	あかつき ^y	5	やや開	中	多	扁円	や多	密	無	少
新潟園試	112号	5	直	や強	や多	円	や多	や密	無	少
	あかつき	5	やや直	や強	多	扁円	や多	密	無	少
愛知総農試 園芸研	112号	4	中	中	多	扁円	や多	や密	無	-
	あかつき	4	中	や強	多	扁円	中	中	無	-
和歌山果樹園芸 試紀北分場	112号	5	中	中	や多	扁円	や多	中	少	少
	あかつき	5	中	や弱	多	扁円	中	中	や少	少
岡山農試	112号	5	直	強	多	扁円	や少	密	無	少
	あかつき	5	直	強	多	扁円	中	や密	無	少
広島農技センター 果樹研	112号	5	中	中	中	扁円	や多	や密	中	中
	あかつき	5	やや直	中	や多	円	多	中	中	中
山口農試	112号	5	直	や強	中	扁円	中	や密	無	微
	あかつき	5	やや開	や弱	や多	円	中	や密	無	少
徳島果試 県北分場	112号	5 ^x	中	中	多	円	や多	中	無	少
	あかつき	12	中	や強	多	円	や多	や密	無	少
香川農試 府中分場	112号	5 ^x	-	や強	や多	扁円	中	密	無	-
	あかつき	10	中	や強	多	円	多	密	無	-
愛媛果試	112号	5	中	や強	中	扁円	中	中	無	少
	あかつき	5	中	中	多	円	多	密	無	少
福岡総農試 豊前分場	112号	5	直	や強	中	扁円	中	や密	無	少
	あかつき	5	やや直	中	多	扁円	中	密	無	少
大分農技センター 果樹研	112号 ^y	4	やや直	中	中	扁円	中	や密	無	少
	あかつき ^y	4	中	中	中	円	や多	密	無	少
鹿児島果試 北薩支場	112号	5	やや直	や強	多	円	多	や密	微	-
	あかつき	5	中	や強	多	円	多	密	微	-

^z 平成8年度の樹齢 ^y 無袋栽培 ^x 高接ぎ

6. モモ筑波114号

‘ちよひめ’より10日程度遅く収穫される黄肉の早生系統として供試された。平成9年および10年度の各場所の成績を第9, 10表に示した。

樹性：樹姿は「やや直」～「中」、樹勢は「中」と評価する場所が多かった。花芽の多少は全場所で「多」と評価された。

果実：果形は「扁円」、着色は「多」～「中」と評価する

場所が多かった。果肉の粗密は「密」とする場所と「中」とする場所が同数となった。核割れは「少」～「無」、生理的落果は「少」と評価する場所が多かった。収穫盛期は‘ちよひめ’より8～19日遅くなった。果実重は全国平均で179gとなり‘ちよひめ’より20g程度大きくなった。糖度は11.7%で‘ちよひめ’と同程度かやや高くなった。酸度はpH4.7で少ないと評価された。

以上、‘ちよひめ’より果実が大きくなるものの、収

第8表 筑波112号の収穫期, 収量および果実品質 (平成7, 8年度の平均)

場 所	品種・系統	収穫盛期	果実重 (g)	収量 (kg/樹)	糖度 (%)	酸度 (pH)
宮城園試	112号 ^z	8.27	279	-	11.9	4.40
	あかつき ^z	8.15	243	86.3	11.9	4.28
秋田果試 天王分場	112号	8.29	171	4.7	11.8	4.86
	あかつき	8.13	206	13.8	13.2	4.84
山形園試	112号 ^z	9.1	294	14.8	13.1	4.60
	あかつき ^z	8.14	214	15.9	14.4	4.80
福島果試	112号 ^z	8.20	255	14.3	13.2	4.70
	あかつき ^z	8.10	277	154.8	12.6	4.42
果樹試	112号 ^z	8.14	301	8.5	12.6	4.73
	あかつき ^z	7.30	200	3.6	13.4	4.52
山梨果試	112号	8.17	223	2.8	13.0	5.10
長野果試	112号 ^z	8.29	215	21.1	14.9	4.90
	あかつき ^z	8.8	186	10.4	15.3	4.90
新潟園試	112号	8.23	200	3.8	13.0	4.65
	あかつき	8.6	155	5.6	14.1	4.85
愛知総農試 園芸研	112号	8.15	143	11.4	15.8	4.55
	あかつき	7.27	176	10.6	12.2	4.55
和歌山果樹園芸 試紀北分場	112号	8.11	320	9.5	12.5	4.60
	あかつき	7.20	245	9.3	13.8	4.90
岡山農試	112号	8.3	194	10.3	13.8	4.75
	あかつき	7.23	229	9.2	14.4	3.90
広島農技センター 果樹研	112号	8.13	237	15.9	11.7	4.75
	あかつき	7.30	200	13.2	13.4	4.55
山口農試	112号	8.18	226	17.5	11.8	4.85
	あかつき	8.4	181	10.6	12.9	4.75
徳島果試 県北分場	112号	8.12	317	14.2	12.2	4.63
	あかつき	7.22	266	92.2	13.8	4.61
香川農試 府中分場	112号	8.13	260	6.6	13.2	4.77
	あかつき	7.25	240	-	11.7	4.47
愛媛果試	112号	8.10	201	8.0	13.5	5.00
	あかつき	7.24	191	9.7	12.1	4.72
福岡総農試 豊前分場	112号	8.12	238	3.0	12.2	4.56
	あかつき	7.24	191	4.3	12.2	4.36
大分農技センター 果樹研	112号 ^z	8.10	196	6.1	13.1	4.93
	あかつき ^z	7.25	177	4.1	11.5	5.01
鹿児島果試 北薩支場	112号	7.29	206	5.4	11.8	5.15
	あかつき	7.19	176	8.6	11.2	5.01
平均	112号	8.16	235	-	12.9	4.76
	あかつき	7.30	208	-	13.0	4.63

^z 無袋栽培

種が遅くなりその時期に収穫される‘日川白鳳’などよりやや小玉となり, 食味も‘ちよひめ’とあまり差がないなどの理由から本系統は平成10年度で試験中止と判断された。

7. モモ筑波115号

‘あかつき’より1週間程度遅く収穫される黄肉の中生

系統として供試された。平成10年および11年度の各場所の成績を第11, 12表に示した。

樹性：樹姿は「やや直」～「中」, 樹勢は「強」と評価する場所が多かった。花芽の多少は「多」とする場所が多く, ‘あかつき’と同等と評価された。

果実：果形は「扁円」, 着色は「やや少」～「少」, 果肉の粗密は「密」～「やや密」, 核割れは「無」～「微」,

第9表 筑波114号の樹性および果実特性

(平成9, 10年度の平均)

場 所	品種・系統	樹齡 ^z	樹姿	樹勢	花芽の 多少	果形	着色	果肉の 粗密	核割れ	生理的 落果
福島果試	114号	7	や直	中	多	扁円	や多	中	や多	少
	ちよひめ	17	や直	や強	や多	円	中	中	や多	少
果樹試	114号	7	や直	や強	多	円	中	中	微	無
	ちよひめ	7	や直	強	多	円	中	中	少	無
山梨果試	114号 ^y	6	直	中	多	扁円	や少	密	中	少
長野果試	114号 ^y	7	開	中	多	扁円	や多	密	無	少
	ちよひめ ^y	7	中	や強	多	短楕円	多	密	無	少
静岡柑橘試 落葉果樹分場	114号	6	中	中	多	扁円	や少	中	や多	少
	ちよひめ	6	中	中	多	短楕円	中	中	や多	少
愛知総農試 園芸研	114号	6	中	や強	多	扁円	中	密	無	微
	ちよひめ	6	中	や強	多	円	少	中	無	無
岡山農試	114号 ^y	7	や直	強	多	円	や少	中	中	少
	ちよひめ ^y	7	直	強	多	短楕円	中	や密	微	少
香川農試 府中分場	114号 ^y	7 ^x	-	中	多	円	多	密	無	-
	ちよひめ ^y	7	-	や強	中	短楕円	多	密	少	-
福岡総農試 豊前分場	114号 ^y	7	中	中	多	扁円	多	中	や多	無
	ちよひめ ^y	7	中	や弱	多	円	や多	や密	中	無
熊本農研センター 果樹研	114号	7	-	や強	多	扁円	や多	密	微	少
	ちよひめ	7	-	中	多	円	や多	や密	少	微

^z 平成10年度の樹齡 ^y 有袋栽培 ^x 高接ぎ

第10表 筑波114号の収穫期, 収量および果実品質

(平成9, 10年度の平均)

場 所	品種・系統	収穫盛期	果実重 (g)	収量 (kg/樹)	糖度 (%)	酸度 (pH)
福島果試	114号	7.15	168	22.6	10.9	5.02
	ちよひめ	7.3	213	79.1	11.8	4.43
果樹試	114号	7.6	171	14.0	12.2	4.65
	ちよひめ	6.25	157	9.9	11.3	4.62
山梨果試	114号 ^z	7.6	197	19.5	13.4	5.05
長野果試	114号 ^z	7.15	139	15.0	11.8	4.65
	ちよひめ ^z	7.5	97	20.0	11.3	4.60
静岡柑橘試 落葉果樹分場	114号	6.24	191	9.9	13.5	4.42
	ちよひめ	6.16	154	4.6	11.8	4.25
愛知総農試 園芸研	114号	7.1	167	14.0	11.3	4.90
	ちよひめ	6.18	130	17.6	10.5	4.45
岡山農試	114号 ^z	6.29	167	25.8	12.4	4.80
	ちよひめ ^z	6.19	148	27.5	12.0	4.45
香川農試 府中分場	114号 ^z	7.1	230	5.2	10.8	4.69
	ちよひめ ^z	6.14	266	4.6	10.6	4.43
福岡総農試 豊前分場	114号 ^z	7.5	208	8.2	9.5	4.22
	ちよひめ ^z	6.19	146	9.4	9.6	4.34
熊本農研センター 果樹研	114号	6.20	158	17.8	11.3	4.88
	ちよひめ	6.9	162	14.9	12.3	4.85
平均	114号	7.3	179	-	11.7	4.72
	ちよひめ	6.21	160	-	11.3	4.55

^z 有袋栽培

第11表 筑波115号の樹性および果実特性

(平成10,11年度の平均)

場所	品種・系統	樹齡 ^z	樹姿	樹勢	花芽の多少	果形	着色	果肉の粗密	核割れ	生理的落果
宮城園試	115号 ^y	7	中	強	多	円	少	や密	無	や少
	あかつき ^y	20	中	強	多	扁円	多	密	や少	少
秋田果試 天王分場	115号	8	中	中	多	扁円	少	や密	無	-
	あかつき	8	や直	中	多	扁円	中	や密	無	-
山形園試	115号 ^y	8	や直	や強	や多	扁円	中	密	少	少
	あかつき ^y	8	や直	中	多	扁円	多	密	や少	少
福島果試	115号 ^y	8	や直	強	多	扁円	少	中	無	無
	あかつき ^y	20	中	中	多	扁円	多	中	中	無
果樹試	115号 ^y	8	直	強	多	円	や少	や密	微	微
	あかつき ^y	8	直	強	多	扁円	や多	や密	微	微
山梨果試	115号	7	直	強	や多	扁円	少	密	微	や少
長野果試	115号	8	や開	や強	多	扁円	少	密	無	や少
	あかつき	8	や開	や強	多	扁円	中	密	無	少
新潟園試	115号	8	や直	強	多	円	や少	密	少	少
	あかつき	8	や直	や強	多	扁円	多	密	無	少
愛知総農試 園芸研	115号 ^y	7	中	強	多	扁円	少	中	微	無
	あかつき ^y	7	中	や強	多	扁円	中	中	無	無
和歌山果樹園芸 試紀北分場	115号	8	や直	強	中	扁円	や少	や粗	多	少
	あかつき	8	中	中	多	扁円	中	や密	中	少
岡山農試	115号	8	直	強	多	短楕円	無	中	微	少
	あかつき	8	直	強	多	扁円	多	中	微	少
山口農試	115号	8	や直	や強	多	扁円	少	や密	無	中
	あかつき	8	や開	や弱	多	扁円	多	や密	無	少
徳島果試 県北分場	115号	8	中	中	多	扁円	少	密	無	少
	あかつき	15	中	中	多	扁円	多	や密	や多	少
香川農試 府中分場	115号	8 ^x	-	強	多	円	や少	密	無	-
	あかつき	13	中	や強	多	円	や多	密	無	少
愛媛果試	115号	8	中	や強	多	扁円	少	密	少	少
	あかつき	8	や開	中	多	円	多	密	微	少
福岡総農試 豊前分場	115号	8	中	中	多	扁円	少	中	少	少
	あかつき	8	中	中	多	扁円	や多	密	微	少
熊本農研センター 果樹研	115号 ^y	8	-	強	多	円	少	や密	無	少
	あかつき ^y	8	-	や強	多	扁円	中	密	無	や少
熊本農研センター 球磨農研	115号 ^y	8	中	強	多	扁円	少	中	少	少
	あかつき ^y	8	中	強	多	円	中	や密	少	や少
大分農技センター 果樹研	115号 ^y	7	中	や強	や多	扁円	や少	密	微	少
	あかつき ^y	7	中	中	多	円	多	密	微	少

^z 平成11年度の樹齡 ^y 無袋栽培 ^x 高接ぎ

生理的落果は「少」と評価する場所が多かった。収穫盛期は「あかつき」より8～18日遅くなった。果実重は全国平均で284gとなり「あかつき」よりも50g以上大きくなった。糖度は12.0%で「あかつき」よりも1%程度低くなった。酸度はpH4.7で低いと評価された。

以上、果実は大きくなるものの、やや甘味が不足し淡泊な食味となるなどの理由から本系統は平成11年度で試験中止と判断された。

8. モモ筑波116号

「ゆうぞら」と同時期に収穫される黄肉の晩生系統として供試された。平成10年および11年度の各場所の成績を第13,14表に示した。

樹性：樹姿は「やや直」～「中」、樹勢は「やや強」～「中」と評価する場所が多かった。花芽の多少は「多」とするところが多く「ゆうぞら」と同等と評価された。果実：果形は「円」、着色は「中」、果肉の粗密は「密」

第12表 筑波115号の収穫期，収量および果実品質 (平成10,11年度の平均)

場 所	品種・系統	収穫盛期	果実重 (g)	収量 (kg/樹)	糖度 (%)	酸度 (pH)
宮城園試	115号 ^z	8.18	172	31.5	11.1	4.69
	あかつき ^z	8.8	259	122.8	10.7	4.56
秋田果試 天王分場	115号	8.23	281	17.3	11.9	4.78
	あかつき	8.5	178	12.1	13.8	4.80
山形園試	115号 ^z	8.22	342	36.1	12.2	4.55
	あかつき ^z	8.7	247	37.5	13.4	4.60
福島果試	115号 ^z	8.17	303	28.1	9.9	5.00
	あかつき ^z	7.31	259	201.0	13.1	4.55
果樹試	115号 ^z	7.30	265	21.9	11.4	4.77
	あかつき ^z	7.22	231	21.3	11.7	4.48
山梨果試	115号	7.30	319	20.6	13.5	5.10
長野果試	115号	8.18	292	22.9	12.4	5.05
	あかつき	7.31	231	24.3	17.1	4.75
新潟園試	115号	8.10	268	21.8	12.8	4.90
	あかつき	8.1	182	10.3	15.9	4.65
愛知総農試 園芸研	115号 ^z	7.25	233	18.1	11.9	4.70
	あかつき ^z	7.15	188	21.8	12.7	4.50
和歌山果樹園芸 試紀北分場	115号	7.24	413	19.5	12.5	4.95
	あかつき	7.6	247	22.9	14.1	4.70
岡山農試	115号	7.26	264	45.8	14.9	4.40
	あかつき	7.11	171	30.3	14.7	4.40
山口農試	115号	7.27	278	52.0	11.4	4.85
	あかつき	7.22	236	23.0	12.3	4.70
徳島果試 県北分場	115号	7.29	251	15.4	12.2	4.83
	あかつき	7.11	248	65.9	13.5	4.35
香川農試 府中分場	115号	7.31	336	11.4	11.4	4.96
	あかつき	7.14	264	-	12.3	4.45
愛媛果試	115号	7.27	338	13.1	12.0	4.60
	あかつき	7.15	286	13.0	13.2	4.50
福岡総農試 豊前分場	115号	8.1	287	7.9	11.1	4.70
	あかつき	7.16	217	13.8	13.7	4.55
熊本農研センター 果樹研	115号 ^z	7.12	254	-	13.3	5.02
	あかつき ^z	7.4	244	-	12.1	4.78
熊本農研センター 球磨農研	115号 ^z	7.18	255	21.3	11.9	4.43
	あかつき ^z	7.5	208	12.2	12.3	4.67
大分農技センター 球磨農研	115号 ^z	7.28	256	26.8	11.2	4.27
	あかつき ^z	7.19	236	29.7	12.2	4.27
平均	115号	8.2	284	-	12.0	4.76
	あかつき	7.20	229	-	13.2	4.57

^z 無袋栽培

～「やや密」，核割れは「無」，生理的落果は「少」と評価する場所が多かった．収穫盛期は「ゆうぞら」の同時期から13日遅くなる場所までであった．果実重は全国平均で222gとなり「ゆうぞら」より30g余り小さくなった．糖度は13.6%で「ゆうぞら」よりやや高くなった．酸度はpH4.7で少ないと評価された．

以上，甘味が多く食味は良好であるものの，晩生としては果実が小さいことから本系統は平成11年度で試験中止と判断された．

9. モモ筑波117号

無袋栽培でも果皮が着色しない白肉の中生系統として

第13表 筑波116号の樹性および果実特性

(平成10,11年度の平均)

場 所	品種・系統	樹齡 ^z	樹姿	樹勢	花芽の 多少	果形	着色	果肉の 粗密	核割れ	生理的 落果
宮城園試	116号	7	や開	や強	多	円	中	や密	無	中
山形園試	116号	8	や直	や強	や多	円	少	密	無	少
	ゆうぞら	8	や直	や強	多	扁円	少	密	微	中
福島果試	116号	8	中	中	や多	扁円	中	や密	無	無
	ゆうぞら	18	や直	中	多	扁円	多	密	無	中
果樹試	116号	8	や直	や強	多	円	中	や密	無	微
	ゆうぞら	8	や直	強	多	円	中	密	無	微
山梨果試	116号 ^y	7	直	や強	多	扁円	や少	中	少	少
長野果試	116号 ^y	8	中	中	多	扁円	中	密	微	少
	ゆうぞら ^y	8	や開	中	多	扁円	や少	密	微	少
新潟園試	116号 ^y	8	や直	や強	多	円	や多	密	無	や少
	ゆうぞら ^y	8	や直	強	多	円	多	密	少	少
愛知総農試 園芸研	116号	7	中	や強	多	円	少	や密	無	少
	ゆうぞら	7	中	や強	多	円	中	や密	無	無
岡山農試	116号 ^y	8	直	強	多	扁円	微	中	無	少
	ゆうぞら ^y	8	中	強	多	扁円	中	中	無	少
香川農試 府中分場	116号 ^y	8 ^x	-	中	多	円	少	密	無	-
	ゆうぞら ^y	8 ^x	-	中	多	円	中	密	無	-
愛媛果試 鬼北分場	116号 ^y	8	中	中	多	円	中	密	無	少
熊本農研センター 果樹研	116号	8	-	や弱	多	円	中	密	無	少
	ゆうぞら	8	-	中	多	円	中	や密	無	や多

^z 平成11年度の樹齡 ^y 有袋栽培 ^x 高接ぎ

供試された。検討の結果、無袋栽培でも果皮の着色がほとんどなく、果肉内および各周囲にも紅色素が入らず、半不溶質の肉質で缶詰製品の品質も優れることから「大久保」に替わる白肉缶詰用品種として有望であると判断され、平成8年度落葉果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会において新品種候補にふさわしいとの合意がなされ、平成8年度果樹試験研究推進会議において新品種候補とすることが決定された。平成9年8月19日に「もちづき」と命名され、もも農林22号として登録された(山口ら, 2001)。

摘 要

1. モモ第7回系統適応性検定試験は「モモ筑波109号」から「モモ筑波117号」の9系統を供試し、全国24の公立試験研究機関の参加により平成4年度から平成13年度まで実施された。
2. 「モモ筑波109号」は「ちよひめ」よりやや遅く収穫される白肉の極早生系統として供試された。着色が多く外観良好で、極早生系統としては食味も優れるものの、「ちよひめ」よりやや遅く収穫され果実もやや小さ

いなどの理由から本系統は平成13年度で試験中止と判断された。

3. 「モモ筑波110号」は「あかつき」より1週間程度早く収穫される白肉の早生系統として供試された。「あかつき」より果実が大きくなるものの、収穫期が同時期となり、食味も劣るなどの理由から本系統は平成11年度で試験中止と判断された。
4. 「モモ筑波111号」は果実肥大が良好で食味も優れ「あかつき」よりやや遅く収穫されることから平成11年8月13日に「なつおとめ」と命名され、もも農林23号として登録された。
5. 「モモ筑波112号」は「あかつき」より1週間程度遅く収穫される白肉の中生系統として供試された。「あかつき」より果実が大きくなり、甘味も同程度あるものの、収穫は遅くなり、果実が三角形になるなどの理由から本系統は平成8年度で試験中止と判断された。
6. 「モモ筑波113号」は遮光袋を用いた栽培ではきれいな白色の外観となり、果実も大きくなり着色抑制栽培用品種として有望であることから平成13年10月9日に「白秋」と命名され、もも農林24号として登録された。

第14表 筑波116号の収穫期、収量および果実品質 (平成10,11年度の平均)

場 所	品種・系統	収穫盛期	果実重 (g)	収量 (kg/樹)	糖度 (%)	酸度 (pH)
宮城園試	116号	9.4	161	20.2	12.5	4.79
山形園試	116号	9.12	301	32.6	13.2	4.60
	ゆうぞら	9.8	263	25.0	12.5	4.55
福島果試	116号	9.9	288	50.8	12.1	4.95
	ゆうぞら	8.31	350	193.5	11.8	4.65
果樹試	116号	8.25	239	22.8	13.8	4.81
	ゆうぞら	8.16	242	8.6	12.1	4.76
山梨果試	116号 ^z	8.21	236	16.8	15.1	4.75
長野果試	116号 ^z	9.7	218	21.8	13.4	4.75
	ゆうぞら ^z	9.3	278	28.1	15.3	4.55
新潟園試	116号	9.6	207	17.6	13.5	4.70
	ゆうぞら	8.24	240	15.2	14.1	4.60
愛知総農試 園芸研	116号	8.11	160	14.6	13.8	4.45
	ゆうぞら	8.9	183	7.6	13.5	4.55
岡山農試	116号 ^z	8.15	197	36.1	15.5	4.40
	ゆうぞら ^z	8.5	195	-	14.6	4.30
香川農試 府中分場	116号 ^z	8.20	287	9.9	12.8	4.78
	ゆうぞら ^z	8.14	339	7.3	12.0	4.82
愛媛果試 鬼北分場	116号 ^z	8.11	179	2.9	14.3	4.81
熊本農研センター 果樹研	116号	7.25	194	-	14.0	4.78
	ゆうぞら	7.28	215	-	13.2	4.90
平均	116号	8.24	222	-	13.6	4.71
	ゆうぞら	8.18	256	-	13.2	4.63

^z 有袋栽培

7. 'モモ筑波114号'は'ちよひめ'より10日程度遅く収穫される黄肉の早生系統として供試された。'ちよひめ'より果実が大きくなるものの、収穫が遅くなるのでその時期としては小玉となり、食味もあまり差がないなどの理由から本系統は平成10年度で試験中止と判断された。
8. 'モモ筑波115号'は'あかつき'より1週間程度遅く収穫される黄肉の中生系統として供試された。果実は大きくなるものの、やや甘味が不足し淡泊な食味となるなどの理由で本系統は平成11年度で試験中止と判断された。
9. 'モモ筑波116号'は'ゆうぞら'と同時期に収穫される黄肉の晩生系統として供試された。甘味が多く食味は優れるものの、果実が小さいなどの理由で本系統は平成11年度で試験中止と判断された。
10. 'モモ筑波117号'は無袋栽培でも果肉内および核周囲に紅色素が入らず、半不溶質の肉質で缶詰製品の品質も良好であることから平成9年8月19日に'もちづき'と命名され、もも農林22号として登録された。

引用文献

- 1) 金戸橋夫・吉田雅夫・栗原昭夫・佐藤敬雄・原田良平・京谷英寿. 1980. モモ新品種'あかつき'について. 果樹試験報 A7: 1-6.
- 2) 果樹試験場. 1994. 育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法.
- 3) 京谷英壽・吉田雅夫・山口正己・西田光夫・石澤ゆり・西村幸一・小園照雄. 1992a. モモ新品種'よしひめ'. 果樹試験報. 23: 1-12.
- 4) 京谷英壽・吉田雅夫・山口正己・西田光夫・石澤ゆり・西村幸一・小園照雄. 1992b. モモ新品種'まさひめ'. 果樹試験報. 23: 13-24.
- 5) 農林水産省果樹花き課. 2000. 平成10年度果樹栽培状況等調査.
- 6) 山口正己・京谷英壽・吉田雅夫・中村ゆり・西村幸一・土師 岳・小園照雄・福田博之. 1996. モモ新品種'あきぞら'. 果樹試験報. 29: 1-13.
- 7) 山口正己・京谷英壽・土師 岳・西村幸一・中村ゆり・八重垣英明・三宅正則・鈴木勝征・木原武士・吉田雅夫. 2000.

- 良食味,無袋適性を有する中生のモモ新品種‘なつおとめ’,
園学雑. 69(別1): 199.
- 8) 山口正己・京谷英壽・吉田雅夫・土師 岳・西村幸一・中
村ゆり・三宅正則・八重垣英明・田中敬一・石川祐子・木
原武士・鈴木勝征・福田博之・朝倉利員. 2001. 白肉
缶詰用モモ新品種‘もちづき’. 果樹試報. 35: 33-44.
- 9) 山口正己・土師 岳・八重垣英明・三宅正則・西村幸一・
中村ゆり・京谷英壽. 2002. モモ新品種‘白秋’. 園学雑.
71(別1): 71.
- 10) 吉田雅夫・金戸橋夫・栗原昭夫・西田光夫・京谷英壽・山
口正己. 1983. モモ新品種‘ゆうぞら’について. 果樹試
報. A10: 1-8.
- 11) 吉田雅夫・金戸橋夫・栗原昭夫・西田光夫・京谷英壽・山
口正己. 1984. モモ新品種‘さおとめ’について. 果樹試
報. A11: 1-8.
- 12) 吉田雅夫・山口正己・京谷英壽・小園照雄・西田光夫・石
澤ゆり. 1987. モモ新品種‘ちよひめ’について. 果樹試
報. A14: 1-8.